

会長の挨拶 41 一職種一会員制の本質 ーその 8ー

ロータリーの会員選考がロータリーの原理を純粹に踏まえて行われていることを前提としてのことなのだが—実際にはこの点は全くデタラメに近い—ロータリアンは当該地域社会の代表者と呼ばれるべき職業人の集まりだということができる。

ただここでもう一つのロータリー的原则が介入してくる。このロータリーの代表者という意味は、いかなる意味においても、一般の社会人に対して優越的地位乃至特権を賦与するものではないということである。ロータリーの代表者ということは、他の一般の社会人よりも、はるかに高度かつ厳格な倫理基準の支配に服し、その服従を自己の本然の義務感として日常の諸生活に実践しなければならないということなのである。

これだけのことを明らかにした後で、次の問題は、この種の階級の人たちをエリートと呼ぶことが妥当かという問題がある。エリートという言葉は選良を意味する。選良とは、ただ単に代議的意味でも、任命的意味でも、また暗黙裡においても、特定社会の良質な一部の者を指すものである。しかし言葉というものは容易に転化されて用いられるものでありエリートはまた、我が国でも、英米でも特権階級の意味にも用いられている。

(小堀憲助著『ロータリー思想の理論構造』より引用)